

令和4年8月17日  
災害対策特別委員会

## 1、 勉強会の意見（まとめ）（7月15日実施）

### ①前期2年間の総括（橋本委員）

\* コロナ禍であったが、コロナ禍、原発事故などによる複合災害時における避難所運営や大雪災害対策など、適切な時期に委員会を実施した。令和4年5月18日に総括を議長に報告し、5つの課題を今後の課題とした。

自主防災組織と議会の災害時対応などはもっと調査研究が必要と考える。特に自主防災組織については、町内会長が変わる中で進めていかなければならないので地域による温度差がある。議会としてどこまで踏み込めるかが難しいところ。

議員は基本的に災害時の固定業務が無い。議会のBCPとしては、各地の情報を市にあげたり、情報を共有することではないか。また、議員個人の災害対応はある程度決まっているのではないかと考える。

\* 2年間の委員会の取り組みは、コロナ禍で大変だったと思う。当市の高齢化率が上がる中で昼間の避難態勢の手薄さや、大雪などの人的被害拡大も懸念される。広大な面積の当市にあっては、エリアごとに災害の事象や抱える悩みも違ってくると考える。委員の日々の活動の中で、行政が拾いきれない地域の実情を調査研究し、深めていって市の政策へ繋げるよう、提言していきたい。  
（委員長より）

### ②意見交換にて(各委員より)

\* 柏崎原発再稼働については、国、県の計画も進んでいないのでなんとも言えないが、万が一の複合災害に備え、先進地へ訓練の視察をしてもよいのではないか。（橋爪副委員長）

\* 市が示している「防災プロジェクト」について、我々も具体的な取り組みや進捗を注視していく必要があると考える。（牧田委員）

\* 当市においては、集中豪雨と大雪による災害に注視すべき。特に雨水排水対策はエリアごとの対応が重要。大雪災害対策は、総務や農政の委員会も関わることから情報共有が必要と考える。（近藤委員）

\* 大雪対応については、アンカー設置補助があるが今後設置しないと業者に除雪してもらえないなど、いろいろと制約が出てくる。高齢者の事故防止や被害を防ぐためにも、こうした安全対策についても調査研究する必要がある。（本山委員）

\* 災害に関しては、今までの常識の範疇を超えた対応が必要と感じている。当委員会としては、前期2年の調査研究を生かし、新たな課題も加えた中で取り組んでいけばよいのではないか。（渡邊委員）

## 2、今後の委員会の方針（案）

特別委員会の設置目的（令和4年5月9日付）をもとに、下記の内容の調査研究及び市への提言を行うことを目標とする。

- ① 近年、想定をはるかに超える災害が発生している中、市民の生命と財産を守るため、議会として防災・減災対策に向けて積極的な提言を行う。
- ② 原子力災害時の避難計画や夜間の避難対策、津波対策などについて調査研究を行う。
- ③市の防災プロジェクトに対応した調査研究を行う。
- ④高齢化が進む中において、各地域におけるきめ細やかな災害対応策と今後の課題を調査研究する。

## 3、取り組みを行うために

- ① 行政の担当課などから現状や取り組みを聞く。（知識や情報の収集、研鑽）
- ② 視察研修の実施。（コロナ禍の状況を見ながら。オンライン等も検討する）
- ③ 災害対策は他分野にわたるため、担当常任委員会等との連携を図りながら進めていく。

以上